

支部展報告

第21回京都支部展 足立勝彦

今年の京都支部展は、全国公募の第37回新日美展の入選作品を中心に関西方面の会員の作品計61点(絵画40点、工芸21点)を選抜展示し京都府京都文化博物館において平成26年3月26日〜30日に開催しました。

作品の中に第37回新日美展での受賞作、(文部科学大臣賞)(東京都知事賞)(東美賞)も加わり例年にも増して充実した内容の展覧会となりました。また、その他の作品もそれぞれ挑戦的なテーマ、作風が見受けられ来場者の目を惹きつけるものでした。

会期中はやや天候不順な日もありましたが、連日100名を超える来場者(800名超)があり、熱心に鑑賞する姿が印象的でした。支部展の会場は5階でしたが、4階ではピサロ、ルノアール、マネ、モネ、などの「光の賛歌印象派展」が開催されており、華やかな雰囲気での支部展となりました。

なお、秋の公募展で入選させていただき今回の支部展での展示で2回目です。的外れのところもあるかもしれませんが、運営や展示についていくつか感じたことを私見として挙げさせていただきます。まず入場者に配布する作品リストですが、作家と展示作品名だけでなく、作家の経歴や、作品への思いやコメントなどを記したほうが、さらに作品に踏み込んで鑑賞してもらえないかなとも思いました。また、展示の方法ですが、何も飾らないで作品に接してもらったほうがいいということもあるでしょうが、せつかくの展示なので、例えば工芸の展示テーブルをカバーで覆うとか、照明を工夫するとか、とくに絵画では額のアクリル板に照明が反射して残念なことになっていました。とはいっても費用やら手間などがかり、言うは易し、であるとは思いますが。

5日間の支部展終了後に会場控室で、今年度の総会が開催され、支部長、副支部長や事務局長はじめ殆どの方が引き続きその任に当たっていただけたとのこと、来年度もいくつかの行事が控えています。順調にまた和気あいあいと進んでいくものと思います。

役員の皆様には、二面倒をおかけしますが、よろしくお願いたします。

第35回神奈川支部展

支部長 鈴木忠義

四月一日〜六日 川崎アートガーデン川崎で例年通り開催しました。東京、神奈川では桜が満開の時期と重なり華やかさを添えました。今回は出展者14名、絵画30点、陶芸6点の展示となりました。今年はいくつも独自の画風と存在感のある作品を多数出品する湯谷さんが、ご主人が亡くなって、描く気力が漲らないとのこと出品されなかった。又、佐藤洋子さんが支部展前に骨折し退院後のリハビリのため出品出来なかった。一方、柳沢多恵さんは実家のある大阪藤井寺の古墳群をふんだんに展示して下さいました。この様子を地元の商工観光課、古墳研究会の理事が会場に来られ、タウン誌に写真入りで紹介して支部展を盛り上げて下さいました。又昨午入会した中谷泰子さんの睡蓮の作品には癒されると言って何回も足を運んでくれた方もおりました。

最終日には新日美展外部審査委員の芳賀先生をお招きして、全作品の懇切丁寧な画評をして頂きました。先生は会場に入るなり開口一番「飾り付けが格段によくなり、作品が明るく映える展示会場になった」と私たちを勇気づけて下さいました。

今年も地区のお客さまだけでなく、各支部から多数のご来場を頂き盛会裡に終了したことに感謝申し上げます。最後に全国新日美の会員の皆様、38回展に向けてお互い頑張りましょう。

立春寒波の中2月3日〜7日迄、第9回さきたま支部展を開催しました。大宮氷川の杜文化館での開催も3年目を迎え地元の方々も支えて下さるようになりました。松本の鈴木建夫さんも作品を送ってきて参加、今年は14名の参加者で、油彩、水彩、日本画、版画、彫金とバラエティに富み最高の内容となりました。寒さや雪に会いましたが搬入、搬出時にはセーフで助かりました。地元の方が大勢来てくれましたが、反面支部間の交流が少ないのが残念でした。さきたま支部は農耕民族が多いので、もっと気候に良い時にやればいいのと言われますが農閑期にやらざるを得ない。これからも支部展としては一番早い時期にやることに変わりは無いと思えます。

ギャラリー・カフェ「さきたま」のご案内

新しく今年から出品した方々には他でも活躍されていて、教室を掛け持ちしたり、よく勉強をされていても新人とはいえない力量をお持ちで会員もとても良い刺激を受け頑張ろうという気持ちになりました。支部としての勉強会などやった方がいいのかと思いますが、ベテランの方を前にしてあれこれ言うのは気が引けるのでそれぞれ自由に描き作った作品を展示することにした。

沢山の差し入れを頂戴し、真ん中のテーブルに座ってお茶をしながら鑑賞することができギャラリーカフェの感じが良かった。今年から出品された方も自宅で見るのと飾られて見るのではまるで違って見える事に気付いたと言います、会期中充実した楽しい時間を共有出来た幸せを、私もしみじみ感じました。次回は楽しい支部展でした。次回も皆様のお越しをお待ちします。 さきたま支部長 住佐美紗子

スケッチ会の実施報告と次回予定

事業部 一柳 幸

2014-1-27(月) 東大三四郎池

三四郎池には前にも来たことがあるが、夏の頃だったので蚊に悩まされたことがある。今日は冬の1月、蚊はいないがやはり寒い。しかし乍ら冬でなければ見ることの出来ぬ風景があるのは嬉しい。快晴の日でも日本の風景には、日本ならではのグレー系と、そこはかとな潤いがある。日本の伝統的な風景に育った日本人でなければ感じ取れない何かしらが、そこに在るような気がする。

風のとまった三四郎池の水面に映る木立が、あたかも鏡に写るような瞬間、その美しさに一同感嘆して、如何に描けば良いかと一声が漏れた次第。

スケッチを終えての帰路「赤門蕎麦」での一献は言うまでもなく芸術談義のひとつときでありました。

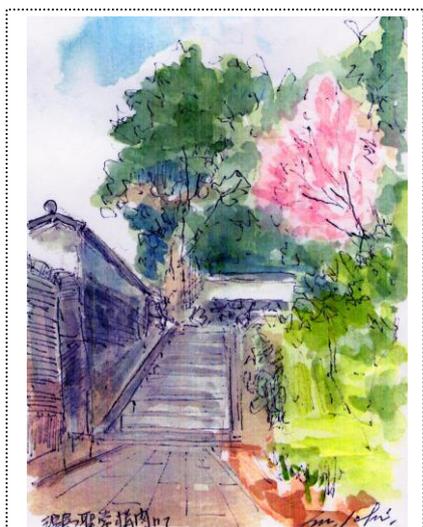
2014-3-24(月)湯島聖堂

桜の花に先立って3月中頃は杏の花が見事である。湯島聖堂の構内に在る杏は美しく花を開かせていた。大聖堂の扉は日曜祭日でないと開いていないので、孔子の聖像は拝観出来ないのが残念。一同、構内の春の風情をそれぞれに描いた次第。

「孔子像 おわす聖堂 杏 咲く」のどかな一日でした。

2014-2-17(月) 上野公園

月曜日で動物園が休みだったのは残念！しかし乍ら上野公園は描く対象がいくらでもある。筆をおろしながらふと思った。小春日和の冬の景色には、例え逆光であっても、他の季節にはない独特の柔らかさがある。そしてそこはかとな淋しさも！観念では表現しにくい実景がそこに在る事に気が付いた。「うららかな 陽のやはらかき 影写す」と早描きのひと筆よい一日でした。



新しく今年から出品した方々には他でも活躍されていて、教室を掛け持ちしたり、よく勉強をされていても新人とはいえない力量をお持ちで会員もとても良い刺激を受け頑張ろうという気持ちになりました。支部としての勉強会などやった方がいいのかと思いますが、ベテランの方を前にしてあれこれ言うのは気が引けるのでそれぞれ自由に描き作った作品を展示することにした。

支部展情報

- 東京東支部展 2014-6-1(日)〜7(土) かつしかシンフォニーヒルズ 2Fギャラリー

次回予定

- 当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合中止します。
- 駒込六義園 2014-4-19(土) 六義園正門 10時集合
- 吉原大門見返り柳衣紋塚お羽黒どぶ跡 2014-5-17(土) 吉原見返り柳前 10時集合
- 芝公園増上寺御成門(愛宕山 芝離宮公園) 2014-6-28(土) 増上寺山門 10時集合